

小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧

1999年度



2000年3月

富山県小杉町教育委員会

例 言

1. 本書は、平成11年度に実施した埋蔵文化財分布調査及び発掘調査の概要をまとめたものである。
2. 埋蔵文化財調査にかかる事務局は小杉町教育委員会生涯学習課に置き、調査事務を文化財保護係長 古城久則が担当し、生涯学習課長 御後庄司が総括した。
3. 本書に収録の調査は、生涯学習課文化財保護係の原田義範・稲垣尚美が行った。
4. 調査の実施にあたり、富山県教育委員会文化課、富山県埋蔵文化財センターから指導・協力を得た。また、調査から報告書作成に至るまで次の方々と諸機関から教示・協力を頂いた。記して謝意を表したい。(敬称略五十音順)
北島豊子・北山豊子・木下一男・高橋壽夫・森田文夫・(学)浦山学園・佛小杉給食センター・浄土真宗親屬会
富山県高岡土木事務所・富山県高岡農地林務事務所・富山県山田川水系ダム建設事務所
5. 調査を実施した遺跡の出土遺物は、小杉町埋蔵文化財整理室で整理を行い、遺物・原因・写真類は小杉町教育委員会が保管している。
6. 本書の編集・執筆は稲垣が行った。

目 次

1. 平成11年度の概要	1	千田遺跡 (NO.5)	8
2. 分布調査	2	三野遺跡 (NO.8)	8
3. 試掘調査	3	小杉伊勢領遺跡 (NO.10)	9
表野遺跡 (NO.1)	4	水蔵場H遺跡 (NO.12)	9
黒河尺目西遺跡 (NO.9)	4	HS-04遺跡 (NO.11)	10
黒河遺跡 (NO.13)	5	HS-04遺跡 (NO.14)	10
三ヶI遺跡 (NO.2)	5	針原西遺跡 (NO.15)	11
黒河尺目遺跡 (NO.6)	6	4. 本調査	12
黒河・中老田遺跡 (NO.7)	6	畑総NO.15遺跡 [NO.2]	12
畑総NO.17遺跡 (NO.3)	7	塚越貝坪遺跡 [NO.1]	13
畑総NO.15遺跡 (NO.4)	7	5. 普及・活用	16

※遺跡名右側の (NO.) が試掘、[NO.] が本調査の一覧表の番号を示す。

凡 例

1. 本文中における発掘区図版の試掘トレンチ脇の記号は、遺物の出土位置を示し種類は次のとおりである。

- 縄文土器 ▲ 石器・石製品 □ 弥生土器 ▼ 土師器 △ 須恵器 ■ 珠洲
 ☒ 中世土師器 ◎ 木製品 ○ 中世無釉・施釉陶器 ◇ 鉄滓 ⊗ 近世無釉・施釉陶器 T トレンチ

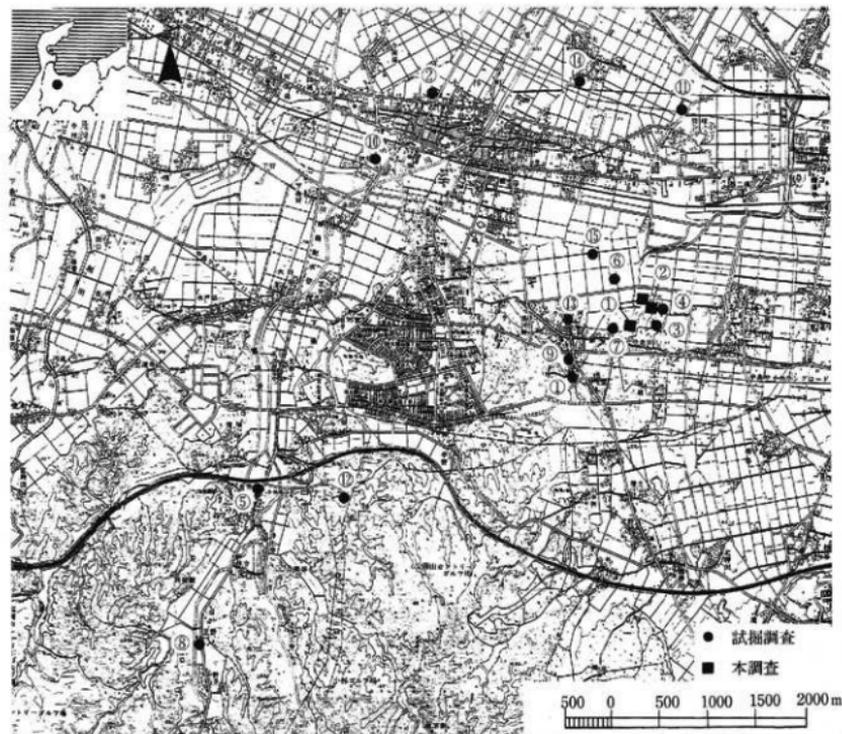
※表紙写真は塚越貝坪遺跡南区のSK03の土器出土状況

1. 平成11年度の概要

平成11年度に実施した埋蔵文化財の調査件数は、分布・現地確認調査24件、試掘調査15件、本調査が2件であった。昨年度と比較すると、分布・現地確認調査、本調査ともに調査件数が減少した。景気の変化により1990年代前半は、大規模な宅地造成に伴う調査が主体であったが、後半は公共事業に伴う調査が主体となった。

調査・整理体制は町の調査員2名で行い、5月から9月までは本調査と調整を図りながら随時分布・現地確認調査、試掘調査を行うとともに報告書作成に取り組んだ。

今年度より富山県発掘調査対応基準（北陸地区対応基準に同じ）が適用されることとなった。たとえば、恒久的な盛土・埋立についてはその施工後の状況が、発掘調査が必要な場合に不可能な時には発掘調査の対象とし、その標準を3mとする。また、建築物については木造の個人住宅や作業小屋など、規模・構造・耐用年数等においてRC造の学校・工場・集合住宅などの工作物に比べ比較的簡易な物が多いことから、原則として発掘調査の対象としない。ただし、その規模・構造耐用年数・将来の利用計画等の観点で発掘調査の対象とするか否かを定める。このように（富山県発掘調査対応基準抜粋）具体的な基準が定められたことにより、埋蔵文化財の保護と発掘調査が円滑に進められるものと考えられる。



第1図 調査位置図 (1:50,000)

注 数字は調査一覧表の番号を示す。

2. 分布調査

町では、周知の埋蔵文化財包蔵地の隣接地及び未踏査区域で行われる公共事業及び民間による各種開発に先立ち、関係機関や事業者と事前に協議し、遺物の散布状況及び遺跡範囲を推定するために分布調査を実施している。

本年度の調査依頼件数は24件（公共事業3件、民間事業21件）で、その内訳は、個人住宅8件、店舗及び資材置場4件、駐車場造成3件、宅地造成3件、その他6件である。

周知の埋蔵文化財包蔵地は、小杉町全図（1万分の1）に記載され、町教育委員会の窓口へ備え付けられており、分布調査によって新たに発見された遺跡は登録され、その後周知の遺跡として取り扱われる。

No	所在地	原因	調査日	対象面積	対象地の種別	現況	発見遺物	開発への対応
1	戸破1546-1	個人住宅建設	H11.3.6	849㎡	未踏査地	標高4.2mの水田		支障なし
2	下条2150-1	個人住宅建設	H11.4.21	391㎡	未踏査地	標高9mの宅地		造成済みのため踏査不可
3	青井谷166-1外3筆	駐車場建設	H11.4.22	701㎡	干田遺跡隣接地	標高10mの水田・荒蕪地		支障なし
4	千崎1125-1外2筆	宅地造成	H11.4.22	1,798㎡	未踏査地	標高4mの荒蕪地		造成済みのため踏査不可
5	白石44-2	個人住宅建設	H11.4.23	251㎡	未踏査地	標高1.5mの水田		支障なし
6	黒河4633外2筆	資材置場建設	H11.5.12	52㎡	一部黒河西山遺跡内・一部隣接地	標高10mの荒蕪地		支障なし
7	中老田新491-7外5筆	駐車場建設	H11.5.21	93.61㎡	畑No.23遺跡隣接地	標高15mの荒蕪地		造成済みのため踏査不可
8	山本新471-2	個人住宅建設	H11.5.21	196㎡	草山A遺跡隣接地	標高36mの宅地		既存宅地
9	太田山1丁目84外2筆	宅地造成	H11.6.3	3,277.41㎡	中山中遺跡隣接地	標高16～18mの宅地及び畑		支障なし
10	黒河新字土代尻1453-2	個人住宅建設	H11.8.23	112㎡	畑No.23遺跡隣接地	標高17mの駐車場		造成済みのため踏査不可
11	黒河489外	町道東老田高岡線建設	H11.10.5	20,000㎡	針原西遺跡隣接地	標高3.6～5mの水田	弥生土器・須恵器 近世陶器・磁器	一部掘削調査の必要あり
12	池多871外	北陸自動車線羽羽パーキングエリア改良事業	H11.11.4	20,000㎡	池多B遺跡隣接地	標高51～70mの山林 溜め池・水田		支障なし、但し一部再度調査の必要あり
13	黒河804	道路消雪施設建設	H12.1.12 (9筆調査) H12.1.14 (1位 倉)	60.49㎡	黒河竹山遺跡隣接地	標高7.5mの水田		支障なし
14	黒河2734外2筆	資材置場建設	H12.1.19	346㎡	黒河尺目・表野遺跡隣接地	標高14mの資材置場		造成済みのため踏査不可
15	上野289-2	個人住宅建設	H12.2.4	404㎡	上野遺跡隣接地	標高10.5mの水田 一部土盛り済み	鉄器・中世土器	支障なし
16	上野326-1外1筆	営繕組合農具用機庫格納庫	H12.2.4	349㎡	上野北遺跡隣接地	標高8mの畑		支障なし
17	西高本66-4	個人住宅建設	H12.3.14	168㎡	未踏査地	標高1.5mの水田		支障なし
18	手崎字仏堂460-2外4筆	個人住宅建設	H12.3.14	315㎡	未踏査地	標高2.9mの水田		支障なし
19	白石271-3外6筆	墓地造成	H12.3.14	54.45㎡	未踏査地	標高1.9m		支障なし
20	淨土寺1209外3筆 入会地字敷後谷37外9筆	土砂採取	H12.3.14	9,929㎡	未踏査地	標高35～47mの山林		支障なし
21	戸破1753-1	資材置場建設	H12.3.14	1,010㎡	未踏査地	標高6mの水田		支障なし
22	淨土寺310	宅地造成	H12.3.14	1,124㎡	未踏査地	標高15mの水田		支障なし
23	二ヶ1184-1	駐車場建設	H12.3.27	300㎡	二ヶ遺跡内	標高3.6～5mの水田		支障なし
24	蟹原463外1筆	資材置場建設	H12.3.28	151㎡	未踏査地	標高1.9mの畑		支障なし
計			24件	延べ18日	対象面積	61,933.96㎡		

表1 現地確認・分布調査一覧

3. 試掘調査

平成11年度に町教育委員会が実施した試掘調査は14遺跡15箇所であった。原因の内訳は、公共事業5件、民間事業8件である。試掘調査の結果、公共事業を原因とする2箇所と個人事業を原因とする1箇所でも本調査の必要が認められた。公共事業はいずれも道路建設に伴うもので、来年度本調査を行う予定である。なお、民間事業については遺跡に影響を及ぼさない範囲内での掘削のため、試掘後事業を行った。

No	遺跡名	所在地	原因	調査期間	対象面積	発掘面積	種別	検出遺構	出土遺物	開発への対応
1	表野 (381076)	黒河新貝坪 1572-1外2筆	個人住宅建設	H11.4.28 (延べ1日間)	303㎡	12㎡	集落 生産			支障なし
2	三ッI (381013)	三ッ628-1外 2筆	駐車場建設及び びづらツ造成	H11.5.6 (延べ1日間)	1,611㎡	92㎡	散布地		中世土師器・管状木製品 須恵器・中世土師器 珠洲・近世陶器	支障なし
3	畑No.17 (381049)	坂越字馬渡 1176外	県営地帯総合整備事業 (農道新設)	H11.5.13～14 (延べ2日間)	765㎡	104㎡	散布地			支障なし
4	畑No.15 (381046)	中北田新字 光明寺66外	主要地方道 小杉・姉中線 建設	H11.5.14～15 (延べ2日間)	239㎡	37㎡	散布地	溝・土坑	珠洲・須恵器	本調査実施
5	千田 (381199)	青井谷67-4		個人住宅建設	H11.7.5 (延べ1日間)	499㎡	24㎡	集落 生産	溝	須恵器
6	黒河尺目 (381044)	黒河字尺目 1986外64筆	主要地方道 小杉・姉中線 建設	H11.7.12～19 (延べ6日間)	11,300㎡	509㎡	散布地 集落	溝・土坑	縄文土器・弥生土器 土師器・須恵器・鉄滓 珠洲・木製品 中世陶磁器・近世陶磁器	本調査必要
7	黒河・中北田 (381043)	黒河2038外 35筆		H11.7.21～8.3 11.15～16 (延べ11日間)	18,600㎡	951㎡	散布地 集落	溝・土坑 井戸	縄文土器・弥生土器 土師器・須恵器・鉄滓 珠洲・中世陶磁器 近世陶磁器	一部本調査必要
8	三野 (381272)	野手26	駐車場建設	H11.7.28 (延べ1日間)	1,114㎡	80.5㎡	散布地		土師器・須恵器・陶磁器	支障なし
9	黒河尺目西 (381068)	黒河字尺目 2592-1外1筆	駐車場建設	H11.9.22 (延べ1日間)	581㎡	48㎡	散布地			支障なし
10	小杉伊勢嶺 (381027)	三ッ2295外 1筆	共同住宅	H11.10.19 (延べ1日間)	1,310.5㎡	44㎡	散布地			支障なし
11	HS-04 (381004)	駕塚937-1外 18筆	農道新設及び 拡幅	H11.11.24～26 (延べ3日間)	2,500㎡	316㎡	散布地	溝	土師器・須恵器・珠洲 中世陶磁器・近世陶磁器	支障なし
12	水成場H (381215)	上野713外6筆	駐車場建設	H12.1.12 (延べ1日間)	3,270㎡	185㎡	散布地		越中瀬戸・近世陶磁器	支障なし
13	黒河 (381042)	黒河382	防火水溝建設	H12.1.18 (延べ1日間)	32㎡	13㎡	散布地		弥生土器・須恵器 陶磁器	支障なし
14	HS-04 (381004)	大江480-1外 1筆	農機具格納庫 建設	H12.1.31～2.1 (延べ2日間)	154㎡	27㎡	集落	溝・井戸	須恵器・中世陶磁器 石器・近世陶磁器	木造建築で地下 50cm以内の掘削の 場合は支障ない
15	針原西 (381030)	黒河75外	町道東北田高 岡線道路整備 事業	H12.2.21～25 (延べ5日間)	14,000㎡	1,178㎡	散布地	溝・土坑	縄文土器・石斧・凹石 弥生土器・鉄滓・伊壁 珠洲・中世陶器 近世陶磁器	一部本調査必要
計 15件				14遺跡	延べ39日	対象面積 56,278.5㎡	発掘面積 3,620.5㎡			

表2 試掘調査一覧

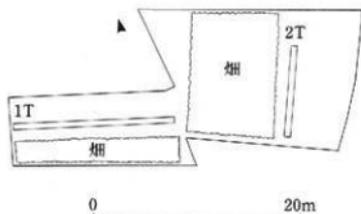
表野遺跡 (No.1)

昭和56年、七美・太閤山・高岡線建設に先立ち調査区の約20m南で、炭焼窯2基、住居跡1棟が調査されている。

しかし、今回の調査では遺物・遺構は発見されなかったことから遺跡の中心は包蔵地の南側と考えられる。



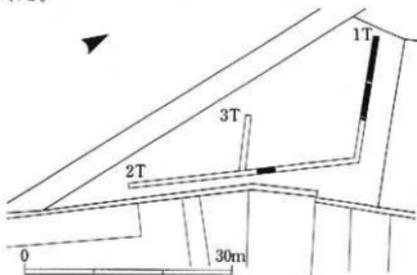
PL. 1 調査風景 (西から)



第3図 発掘区

黒河尺目西遺跡 (No.9)

調査対象地の北西部分に、近代以降に埋め立てられた大きな落ち込みが認められた。また、調査区全体に耕作土と地山の間に40~50cmの客土が認められ、かなりの人為的影響を受けており、包蔵地には含まれないと考えられる。



第4図 発掘区



第2図 調査位置図 (1:10,000)



PL. 2 調査風景 (北から)

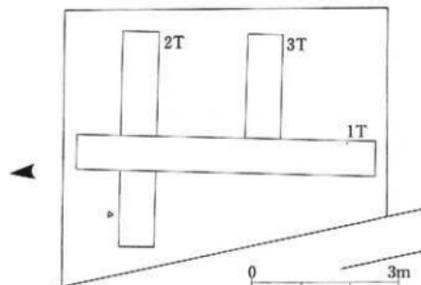
黒河遺跡 (No.13)

調査区は、標高7 mの黒河遺跡の北西縁辺部に位置し、南西方向に微高地が広がる。

土層の堆積は、1層：耕作土（15～20cm）、2層：地山（粘質土と砂利）で、二つの層は明瞭に分層でき、漸移層の発達認められない。おそらくほ場整備の影響によるものと考えられる。また、調査区及び周辺地から採集した弥生土器・須恵器については、南西方向の微高地上に位置する黒河遺跡からは場整備の際に、動いたものと推測される。



PL. 3 調査風景 (西から)



第5図 発掘区



PL. 4 出土遺物

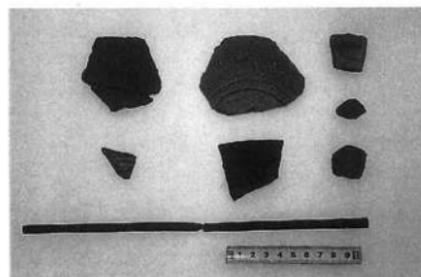
三ヶI遺跡 (No.2)

調査対象地は、下条川左岸の標高約3.6mの沖積平野に位置する。基本層序は1層：盛土（50～60cm）、2層：旧水田耕作土（20～40cm）、3層：暗黒褐色土（0～20cm）、4層：シルト質あるいは砂質の地山である。

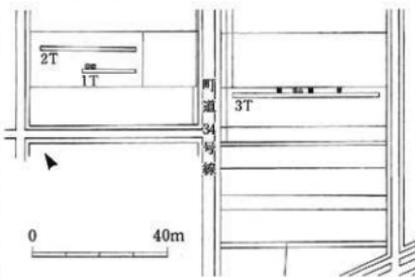
遺物は奈良時代の須恵器、中世の珠洲・土師器、近世陶器、箸状木製品が出土したが出土状況にまともがなく、遺構は認められなかった。



第6図 調査位置図 (1:10,000)



PL. 5 出土遺物



第7図 発掘区

黒河尺目遺跡 (No.6)

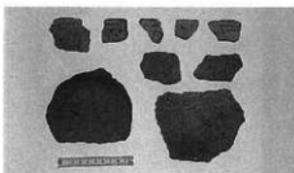
調査区は射水平野南端の娶川右岸に位置し、縄文から近世までの遺物が出土している。出土した縄文土器は、調査区南端に隣接する旧娶川左岸の自然堤防にある縄文時代遺跡（黒河尺目）のものと考えられる。遺跡の主な時代は、南側が縄文中期、北側が弥生・古代・中世と考えられる。



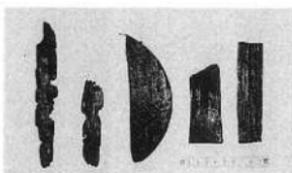
PL. 6 柱穴検出状況



PL. 7 土坑検出状況



PL. 8 出土遺物



PL. 9 出土遺物

黒河・中老田遺跡 (No.7)

調査区からは、縄文から近世までの遺物が出土しているが、縄文土器に伴う遺構はないと考えられ、弥生時代末から古墳時代初めと古代・中世が遺跡の主な時代と考えられる。また、遺跡の一部はほ場整備以前の娶川によって攪乱されているが、遺跡の中心部は調査区の南部と北部と考えられる。



PL. 10 調査風景 (西から)



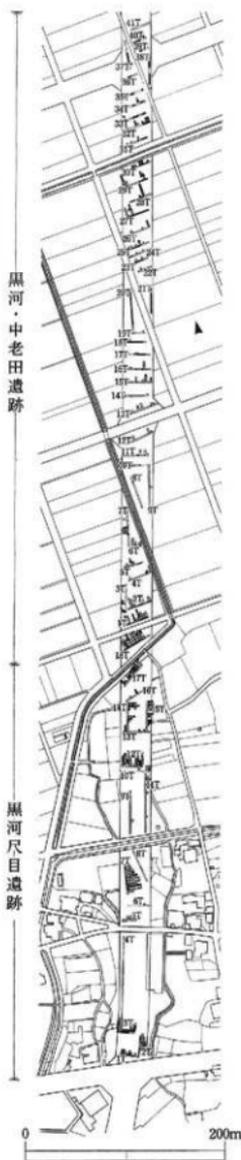
PL. 11 出土遺物



PL. 12 出土遺物



PL. 13 出土遺物



細総No17遺跡 (No.3)

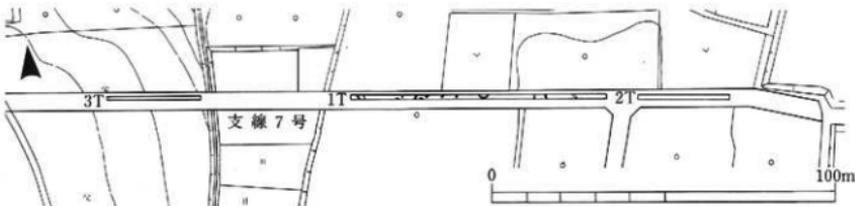
調査対象地は鍛冶川の左岸、標高8~9.5mの地点に位置する。基本層序は、1・2トレンチが1層：耕作土（8~40cm）、2層：淡黄灰色土の地山である。3トレンチは1層：耕作土（30~60cm）、2層：漸移層（0~15cm）、3層：淡黄灰色土の地山である。遺構・遺物はなかった。



第9図 調査位置図 (1:10,000)



P.L. 14 調査風景 (西から)

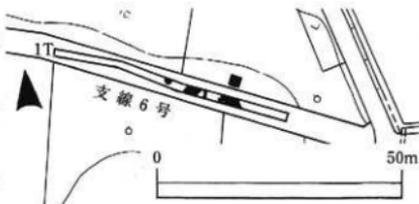


第10図 発掘区

細総No15遺跡 (No.4)

本年度調査を行った塚越貝坪の東、標高6.5mの平野部に位置する。基本層序は1層：耕作土（30~60cm）、2層：漸移層（0~30cm）、3層：地山である。遺構検出面は3層上面で溝1条と土坑敷基を確認した。遺物は溝から珠洲の壺・甕・片口鉢の破片を検出した。

以上の結果から、調査区を含めた一帯に包蔵地が広がっていると考えられる。



第11図 発掘区



P.L. 15 遺構検出状況



P.L. 16 出土遺物

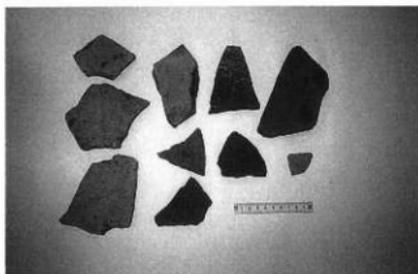
干田遺跡 (No5)

調査区の東約120mの下条川左岸で昭和63年に発掘調査を行い、弥生時代後期と中世の遺構が確認され、遺跡の中心は西側に広がると推定された。

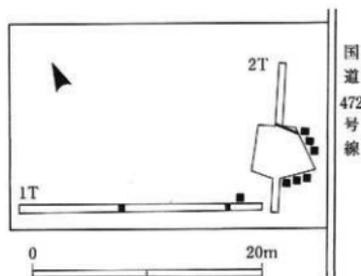
しかし、今回の調査では須恵器が出土したものの、遺構は確認できなかった。以上のことから前回の調査地と今回の調査地の間のやや微高地が遺跡の中心となると考えられる。



第12図 調査位置図 (1:10,000)



PL. 17 出土遺物



第13図 発掘区

三野遺跡 (No8)

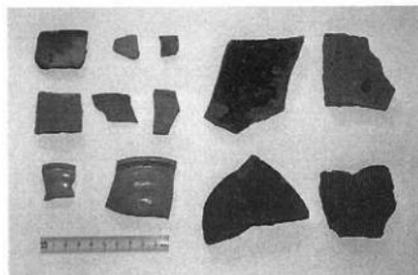
対象地は、東から西に向かって傾斜している下条川右岸の河岸段丘に、盛土をして造られた水田である。盛土の下には、階段状に造られた旧水田跡が確認されたが、遺構は確認できなかった。

また、出土した土師質土器・須恵器・陶磁器は、すべて盛土内からの出土であることから、包蔵地の土砂を盛土に用いたと考えられる。

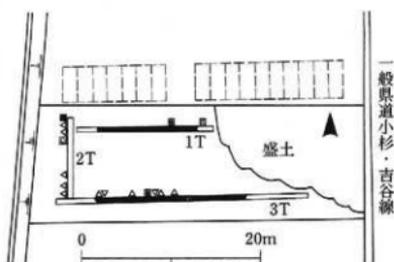
なお、北側隣接地は平成6年に試掘調査を行っているが遺跡とは認められなかった。



第14図 調査位置図 (1:10,000)



PL. 18 出土遺物



第15図 発掘区

小杉伊勢領遺跡 (No.10)

調査区は下条川の右岸、標高3.6mのところに位置する。溝と落ち込みを確認したが、いずれも現代の掘削と推測される。遺物の出土はなかった。

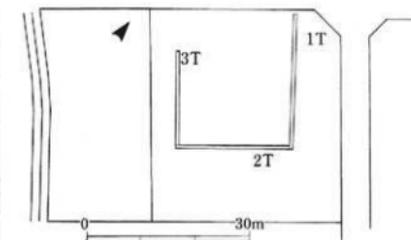
対象地は南に向かって低くなっており、微高地の縁辺部に位置すると考えられ、遺跡の中心（北側）から外れると思われる。



第16図 調査位置図 (1:10,000)



P.L. 19 調査風景 (北から)



第17図 発掘区

水蔵場H遺跡 (No.12)

調査区全体に1～3mの盛土がされ、現在の水田が造られている。旧水田の検出状況から、西側に隣接する滝谷池へ向かってかなり急な階段状に水田が造られていることが確認できた。

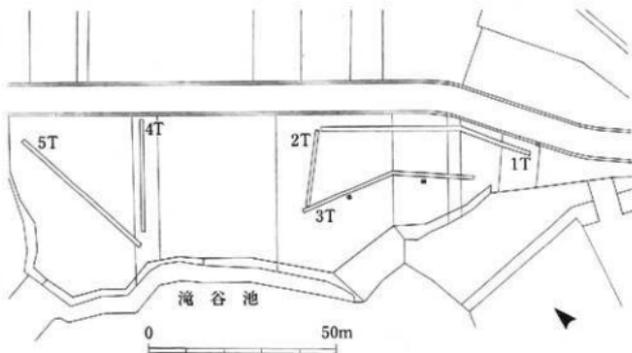
検出遺構はなく、出土遺物は越中瀬戸、近世・近代陶磁器で、すべて盛土から出土した。隣接する東側で平成5年に行った本調査では炭焼窯6基、製鉄炉1基を確認しているが、対象地は包蔵地の範囲外と考えられる。



P.L. 20 出土遺物



第18図 調査位置図 (1:10,000)



第19図 発掘区

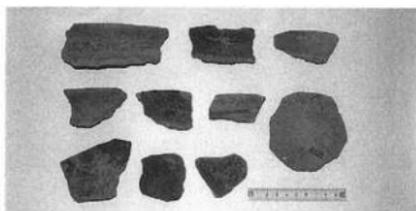


第20図 調査位置図 (1 : 10,000)

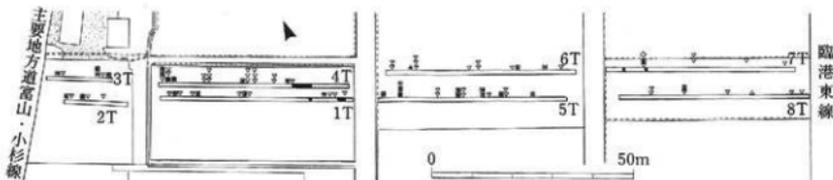
HS-04遺跡 (No.11)

対象地からは、遺構は検出されなかった。1層：耕作土と2層：地山が明確に分層でき漸移層の発達認められず、1層に古墳時代末から近代までの遺物が混在していた。

おそらく、わずかに対象地が遺跡の中心から外れるか、調査区北西の白石遺跡（平成2年調査）など近隣の遺跡から遺物が動いたものと考えられるが、いずれにしろほ場整備の影響により、視乱を受けていると考えられる。

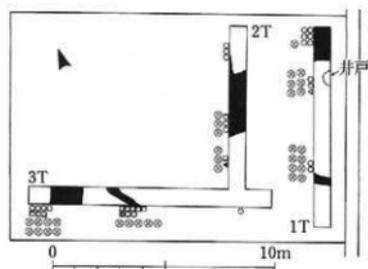


PL. 21 出土遺物

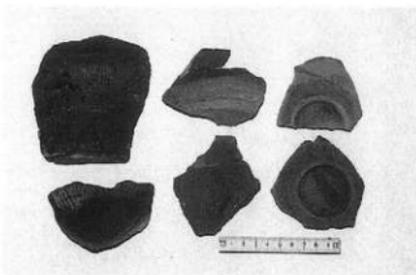


第21図 発掘区
HS-04遺跡 (No.14)

対象地は、標高3.5mの沖積平野に位置する。確認した遺構は、中世の溝・井戸である。出土した遺物は、須恵器・越中瀬戸・磁石・近世陶磁器であることから、対象地はHS-04遺跡内に位置し付近にはおそらく住居跡があると考えられ、周辺の試掘結果から遺跡は北東側へ広がると推測される。



第22図 発掘区



PL. 22 出土遺物

針原西遺跡 (No15)

標高3.2~4.2mの平野部に位置し、北東は針原東遺跡、南部は黒河・中老田遺跡と隣接する。今回の試掘は針原西遺跡を東西方向に切る形で行った。

検出された遺構は、弥生時代から古代に至る溝が数条である。また、調査区の東側で縄文時代晩期の遺物包含層を確認した。出土した遺物は、縄文土器・石斧・凹石・弥生土器・土師器・須恵器・珠洲・鉄滓・陶磁器である。

対象地と黒河・中老田遺跡の試掘調査結果から両対象地は縄文時代から古代の遺跡内に位置すると考えられる。



第23図 調査位置図 (1:10,000)



P.L. 23 出土遺物 (縄文土器・石斧・凹石)



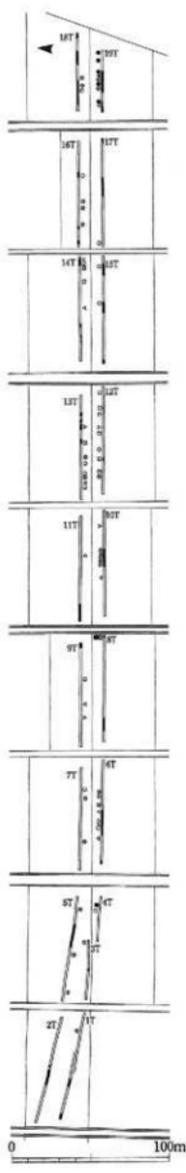
P.L. 24 出土遺物 (弥生土器)



P.L. 25 出土遺物 (須恵器)



P.L. 26 出土遺物 (陶器・磁器)



第24図 発掘区

4. 本調査

平成9年2月、県山田川水系ダム建設事務所・呉羽射水山ろく用水利地改良区から、小杉町塚越地区の農業用排水路・パイプライン施設など、農業環境整備を含めた新たな県営畑地帯総合整備事業計画が小杉町教育委員会に示された。

以後各工事内容と遺跡の取り扱いについて協議を行い、平成10年6月から幹線及び支線農道の試掘調査や工事立会を開始した。

平成11年度は、地下遺構に影響が及ぶ支線5・8号農道にかかる塚越貝坪遺跡と支線6号農道にかかる畑総No15遺跡で本調査を行った。この2件が今年度町が行った本調査である。

No.	遺跡名	所在地	原因	調査期間	発掘面積	検出遺構	出土遺物
1	塚越貝坪(北区) (381045)	塚越字貝坪	県営畑地帯 総合整備事業	H11.5.21~6.24 (延べ20日間)	447㎡	土坑	弥生土器 古代土師器
	塚越貝坪(南区) (381045)	塚越字貝坪	県営畑地帯 総合整備事業	H11.6.25~8.21 (延べ25日間)	576㎡	土坑・柱穴	縄文土器・石器 古代土師器 須恵器・鉄滓
2	畑総No15 (381046)	中老田新	県営畑地帯 総合整備事業	H11.8.25~9.16 (延べ15日間)	230㎡	土坑・柱穴	弥生土器 古代土師器
計	2遺跡		延べ60日間		発掘面積1,253㎡		

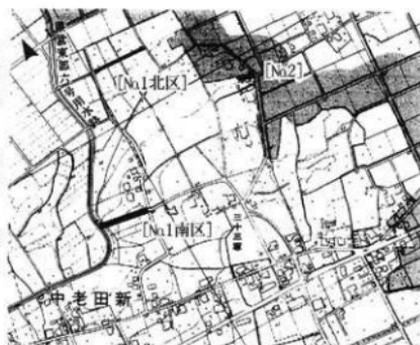
表3 本調査一覧

畑総No15遺跡 [No2]

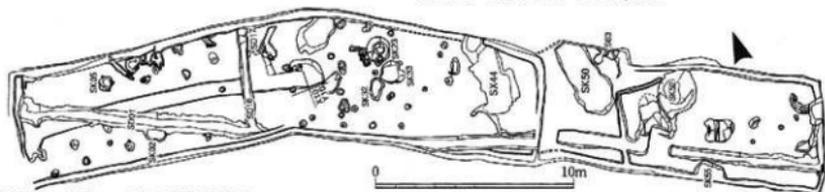
調査地は標高6.5m前後の扇状に突き出す台地の端部に立地し、梨畑及び畑地として利用されている。調査区東側の一段低くなった水田との比高差が0.7mほどあり、塚越貝坪の南東約300mほど離れた位置である。

検出した遺構は、古墳時代の土坑2基、飛鳥時代の土坑2基、古代の炭焼窯1基・土坑1基、中世の溝1条である。

遺物は、弥生土器、古墳時代の古代土師器、古代の須恵器・土師器・鉄滓・支脚、中世の陶器、近世以降の陶器・磁器である。



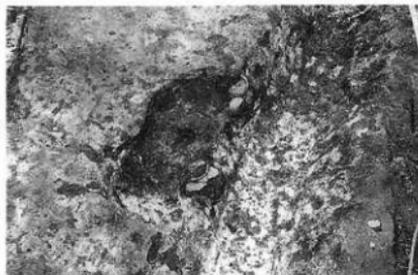
第25図 調査位置図 (1:10,000)



第26図 畑総No15地区 遺構配置図



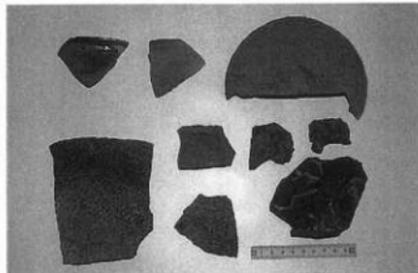
PL. 27 S63



PL. 28 SK02



PL. 29 出土遺物



PL. 30 出土遺物

越塚貝坪遺跡(北区) [No.1]

北区は、遺構と認識できるものは少なく、多くの穴や溝は梨畑や育樹林として利用されていたためにできた擾乱である。確認できた遺構はすべて土坑で、土師器の甕・壺・高杯・鉢片が投棄された状態の土坑であった。

出土遺物は、4世紀前半頃(高島式)の高杯・甕・有孔鉢・壺のほか奈良時代の須恵器や中世の珠洲、近世以降の肥前系の椀などの陶磁器類である。

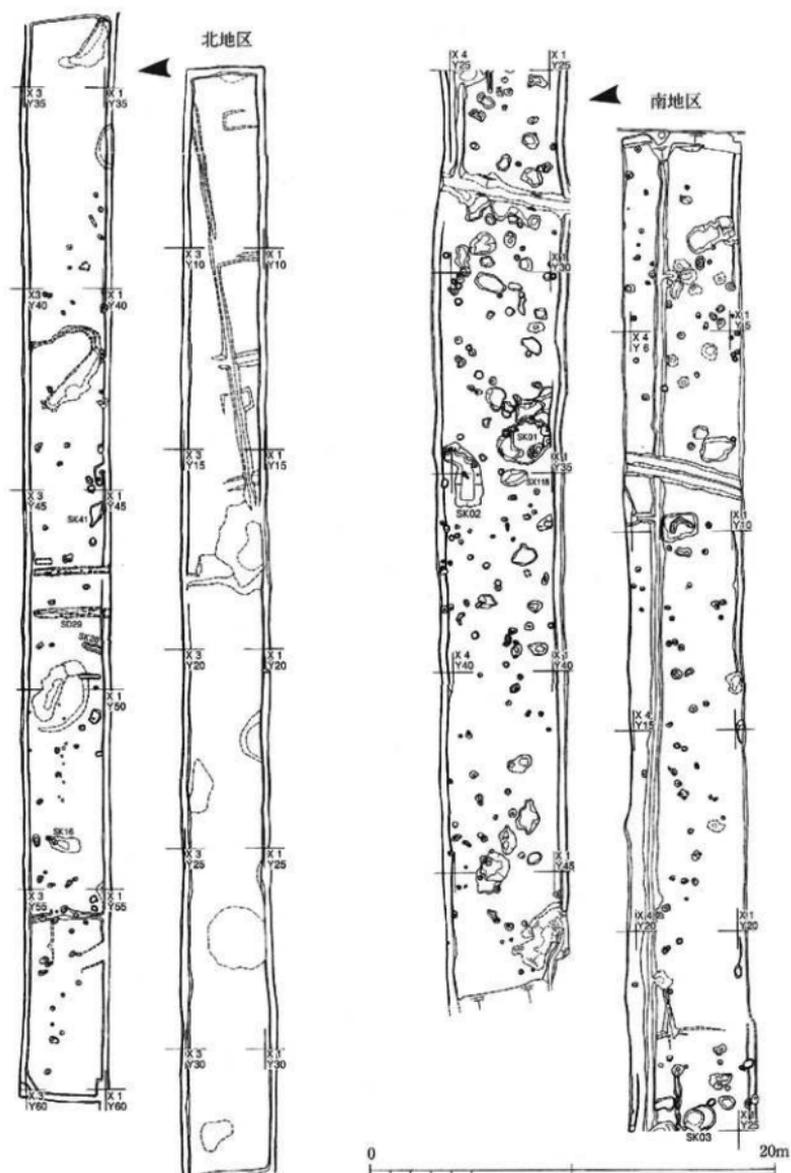
以上の結果から、近隣に集落の存在が伺えるものの、昭和62年からの数次にわたる試掘調査の結果も考慮すると、集落は調査区を含めた丘陵上に位置するとしてもあまり大きくない集落が想定される。

塚越貝坪遺跡(南区) [No.1]

南区は北区の南、約300mの台地の先端に位置する。検出した遺構は、縄文時代の土坑6基、溝2条、掘立柱建物の柱穴と考えられるピットを多数検出した。また、古代の掘立柱建物については、建物を復元することはできなかった。

縄文時代の遺物は、口縁部に半截竹管文が施された深鉢のほか、磨製石斧の刃部や黒曜石の破片で、これら出土遺物の時期から遺構の年代は中期前葉と考えられる。古代の遺物は、杯蓋・杯・甕・壺・フイゴの羽口のほか、土師器の壺・甕が出土している。いずれも時期は、8世紀第2四半期頃と考えられる。

以上のことから、縄文時代中期前葉と奈良時代の複合遺跡である。縄文時代の遺構は土坑や小土坑が確認されており、調査区を含めた丘陵端部の台地上一帯に大規模な集落が存在すると考えられる。また、土器のほかに出土している鉄滓やフイゴの羽口から鉄製に関連した工人集落の可能性が高い。



第27图 塚越只坪遺跡北地区・南地区遺構配置図



P.L. 31 北区作業風景



P.L. 32 北区SK16上層



P.L. 33 北区SK16下層



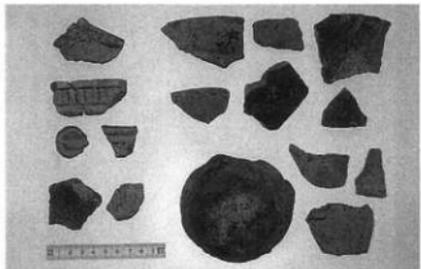
P.L. 34 北区SD29



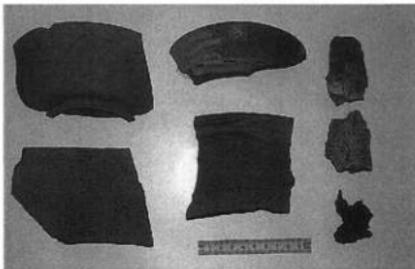
P.L. 35 南区作業風景



P.L. 36 南区SK03



P.L. 37 出土遺物



P.L. 38 出土遺物

5. 普及・活用

(1) 埋蔵文化財整理室での作業

整理室では、平成9・10年度に実施した愛宕遺跡（県営ふるさと農道整備事業）報告書作成のため、遺物の分類、復元、実測、版組み、トレース、写真撮影を行うとともに、本年度出土した遺物の洗い、注記から報告書作成に至る作業を行った。また、未刊行となっている発掘調査報告書の作成も平行して進める一方、現地確認・分布調査、試掘調査によって採集された遺物の洗いや注記などの整理作業を行った。

(2) 埋蔵文化財整理室の見学

平成11年度には次の見学が行われた。5月12・17・18日に小学校6年生102名、2月2日に自然と文化を守る会23名をはじめ、町内外から約130名の見学があった。また、1月には、北陸地方の研究者約30名による資料見学会が行われた。

(3) 報告書などの刊行

平成11年度事業として、小杉町教育委員会が2000年3月に刊行したものは以下のとおりである。

- ①「小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1999年」（A4版 16頁）
- ②「塚越貝坪遺跡、畑総No.15遺跡発掘調査概要」（A4版 49頁）
- ③「水蔵場D遺跡発掘調査報告」（A4版 6頁）



P.L. 39 小杉小学校見学



P.L. 40 資料作成整理作業



P.L. 41 図面作成



P.L. 42 実測作業

年度	現地・分布調査			試掘調査			本調査		
	件数	対象面積 (㎡)	延べ調査日数	件数	発掘面積 (㎡)	延べ調査日数	件数	発掘面積 (㎡)	延べ調査日数
5	※12	16,865	7	4	1,189	15	6	12,286	362
6	22	54,650	11	8	4,714	19	3	5,304	148
7	27	84,031	21	23	3,079	42	1	400	49
8	29	51,502	17	13	2,159	27	6	6,695	296
9	44	80,519	27	15	7,937	58	3	3,571	219
10	36	58,797	19	15	3,504	36	3	2,767	50
11	24	61,933.96	18	15	3,620.5	39	2	1,253	60

表4 小杉町埋蔵文化財調査件数などの年度別推移（県教委主体調査を除く）

※平成5年度発行の「小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1993年度」第1表「分布調査一覧」以降の調査数などを加算している。

小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1999年度

平成12年3月31日発行

編集・発行 小杉町教育委員会

富山県射水郡小杉町戸破1511

〒939-0393 TEL (0766)56-1511

印刷 日興印刷株式会社

